

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

5項 水産業費

2目 水産業振興費

水産課(内線:7309)

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
子どもから始める魚食推進事業	941	941	0				941	
トータルコスト	1,748千円 (前年度 2,598千円) [正職員:0.1人]							
主な業務内容	制度設計、周知説明、事前準備及び授業実施							
工程表の政策目標(指標)	魚食の普及							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

現在の食事は肉料理派が多数を占めており、その大きな理由の一つとして子どもが魚介類を好まないことが挙げられている。このような傾向は水産物の需要を引き下げ、将来的な水産物の供給体制の弱体化につながる。

そこで、深刻な魚離れの実態を解消するため、改善効果の高い小学生を対象に魚食と水産に関する授業提案と出前授業を行う。

2 主な事業内容

(1) 事業内容

ア モデル授業づくり

県内の小学校が自主的、自立的に県産魚を使った調理実習等水産業に関する授業を行えるようになるため、モデル授業を行うとともに、マニュアル化を進める。

テーマ	内 容
魚の美味しさを知る (予定10回)	県産魚を使った調理実習と水産業の出前授業 講師 漁業関係者及び行政機関
鳥取県の水産業を知る (予定 5回)	水産施設訪問授業 (見学例)境港水産物地方卸売市場⇒まき網冷蔵庫⇒水産試験場

※平成21年度に実施した学校に対しては、同じテーマに係る費用負担は行わない。

イ 水産関係者への問題提起及び啓発

水産関係者に対して魚離れに関する問題を提起し、当事業への参画を促す。

- (2) 事業実施主体 水産課・授業を希望する小学校・水産関係者
- (3) 所要経費 941千円(講師旅費、謝金、調理実習材料費、貸し切りバス代他)
- (4) 事業期間 平成21年度～平成23年度

平成21年度 魚離れに関する情報収集及び魚食授業の試行並びにマニュアル原案作成

平成22年度 魚離れの問題提起と対策のためのモデル授業作り

平成23年度 学校や水産関係者が主体となった魚食普及活動の後方支援

3 これまでの取組状況、改善点

(1) 平成21年度の実績

- ・調理実習(予定10回) 14回(14クラス)
- ・施設訪問(予定 5回) 12回(17クラス) (訪問場所:東部地区2回(2クラス)、境港地区10回(15クラス))
- ・出前授業(予定10回) 14回(16クラス)

(2) 改善点

行政だけの取組みに留めず、水産関係者等が自発的に魚離れ対策に取り組めるよう、今後の事業展開と構成を明確にした。